

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度 第3回社会教育委員会議定例会		
事務局 (担当課)		生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286 (直通)		
開催日時		令和4年11月8日(火) 午前10時～正午		
開催場所		相模原市役所第2別館3階 第3委員会室		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他	0人(別紙のとおり)		
	事務局	8人(生涯学習課長、他7人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 あいさつ 2 議題 (1) 「調査研究・提言の柱」これまでの整理 (2) ヒアリング調査 (3) アンケート調査等の結果 3 その他 (1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会(愛川町会場)について (2) 報告事項「神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会について」		

## 議 事 の 要 旨

### 1 あいさつ

生涯学習課長あいさつ

生涯学習課長の進行により、開会のあいさつを行った。

古矢議長あいさつ

古矢議長があいさつを行った。

### 2 議題

古矢議長の進行により議事が進められた。

#### (1) 「調査研究・提言の柱」これまでの整理について

資料に基づき説明が行われた後、協議した。主な意見は次のとおり。

(古矢議長)

前回の第2回定例会から約3ヶ月の時間が経ち、その間に小委員会でアンケート調査について調整や、調査研究・提言の柱の整理を行ってきた。

(秦野委員)

第2回定例会の協議を踏まえ、小委員会で3つの柱と柱に関わるキーワードについて整理した。

3つ目の柱のキーワードに「情報の共有と往還」という言葉があり、小委員会で「現在一般的に使われる単語「往来」という言葉の方が耳に入りやすい」という意見が挙げられた。「往還」の発言者である小林委員に、「往来」に修正しても良いか意見を伺いたい。

(小林委員)

「往来」で問題ない。

(秦野委員)

小林委員の意見を確認できたため、「往還」は「往来」に修正させていただく。

(古矢議長)

秦野委員長から3つの柱について説明がされた。資料2の表面①②は、3つの柱の前提となる考え方、基盤として言葉を紡いでいくということで叙述されている。これらの考え方を理解した上で、今後進めていきたいと思う。

基本は資料のとおり進め、今後の協議や調査の中で色々微調整が生じた際には、適宜加えていきたいと考えているが、よろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(2) ヒアリング調査について

資料に基づき説明が行われた後、協議した。主な意見は次のとおり。

(古矢議長)

ヒアリング調査は全員参加としたい。なお、大谷委員は公民館利害関係の当事者であるため調査から外れていただき、私と共にピンチヒッターとして控えに回っていただく。したがって、各区4人で担当し、1公民館につき2人1組で担当することになる。

(小林委員)

資料2「調査内容」欄の最後の行にある「全館」とは「6館」という意味か。

(古矢議長)

そのとおりである。

(小林委員)

資料3-2「質問票」の共通質問①～⑦は、ヒアリング対象以外の公民館からもアンケートという形でデータを取った方が、分析の材料が多くなると思う。これらの質問に答え、自分を顧みることによって「実は」という話がチラホラ出てくるのではないか。人は、問われてみて初めて気付く場合が多くあるため、他の館にも文字だけでも提出いただければ、より分析ができると思う。

(古矢議長)

小林委員から、ヒアリング調査対象外の公民館にも個別質問を除いて、紙によるアンケートを取ってはどうかと意見があった。

(小林委員)

社会教育委員会が、このようなことに取り組んでいることを全公民館に分かってもらえる。

(古矢議長)

この件は、一旦預らせていただき、練り直す時間をいただいてもよろしいか。

(小林委員)

構わない。

(古矢議長)

手間の問題や時期的なこともあるため、練り直す時間をいただきたい。

(全委員)

反対意見なし。

(古矢議長)

資料3-1「公民館案内文」及び資料3-2「質問票」は、ヒアリング調査対象公民館6館へ送付し、11月30日までに調査票を記載いただき、事務局へ提出してもらおう。委員は、事前に回答を読み込んだ上でヒアリング調査に臨み、事前回答の深掘りや関連事項について質問をする。これらの資料について意見はあるか。

(小泉勇委員)

資料 3-1 の中段「つきましては」の文章について、「ご協力お願いいたします」の前に、「つきましては公民館の皆様が職務を行う際に、工夫している点や抱えている課題等について、12月から1月にかけて社会教育委員がヒアリング調査を実施しますので」という一文を入れてはどうか。

(古矢議長)

小泉勇委員の意見について、記載した方が公民館の方の理解も深まると思うが、いかがか。

(金子委員)

記載した方が、事前に回答してもらえないのではないか。

(古矢議長)

調査概要について、言葉を補うということによろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(古矢議長)

続いて、資料 3-2「質問票」について、公民館職員 1 人につき 1 枚記載いただく予定である。これについて意見はあるか。

(大橋委員)

質問票の内容について協議する前に、1 点確認したい。調査対象者の選出について、任期付短時間勤務職員は各館に数名いるが、どのように調査対象者を選出するのか。

以前公民館事業に携わった際、他公民館から異動してきた公民館職員から「前にいた公民館では、この事業を経験していないためわからない」と言われたことがあった。調査対象公民館に数年所属している職員でないと答えられないのではないかと思います、質問させていただいた。

(秦野委員)

任期付短時間勤務職員について、小委員会でも意見交換を行った

公民館を選出する際、任期付短時間勤務職員の経験年数が長い方と短い方どちらも入れた現場の声を聞いて良いと思っている。実際にどのような答えが返ってくるかわからないが、「前の公民館ではやりやすかったが、今の公民館に来たらやりにくくなった」あるいは「本当はこのような事業をやりたいが、今いる公民館の体制では、なかなか難しい」「全然わからない」という答えも大きな課題であると思う。

我々社会教育委員からの質問に対し、調査票の記述では公的な意見が返ってくるかもしれないが、その辺は直接聞き取りしながら、本音が聞き出せたら良いと考えている。しかし、任期付短時間勤務職員の選出はどうするか、小委員会で具体的に検討していなかったため、大橋委員の意見はありがたい。

(古矢議長)

任期付短時間勤務職員の選出について、大谷委員の考えはいかがか。

(大谷委員)

大橋委員が言われたように、各館に任期付短時間勤務職員は3人いて、それぞれ想いも違い「公民館大好き、こんな事業をやっていきたい」という方もいれば、「異動して来たばかりでよくわからない」という方もいるため、選出方法をどうするかは非常に難しい。

(秦野委員)

我々委員から職員を名指しすることは難しいため、公民館の中で互選していただく方法、あるいは職員本人の自薦という方法がある。調査実施日に予定が付かない職員がいる場合もあるため、公民館の中で調整いただくことでよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(古矢議長)

質問票は1人1枚ずつ回答してもらいたいことがわかるよう、資料3-1「案内文」の4節目に「3部」と「各方にご記入いただきたい」という言葉を補い、「当日の進行が円滑にすすめられるよう、あらかじめ質問票3部をお送りいたしますので、ご多用の中恐縮ですが、各方にご記入いただき、下記のとおりご提出をお願いいたします。」と加筆したい。

(秦野委員)

事前回答者と当日対応者が別の方だと混乱してしまうため、「当日ヒアリング調査に対応して下さる方がご記入ください」ということも加筆してはどうか。

また、これらの追加修正は、文中に言葉を入れるか、提出期間や提出方法と同様に「下記」に注意書きとして整理するか、どちらが良いか。

(大谷委員)

「下記」の方が良いと思う。

(秦野委員)

実施期間や提出方法と同様に、「下記」に文章を追加してよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(古矢議長)

資料3-2「質問票」について意見いかがか。

(金子委員)

調査当日の様子を録音し、後程記録をまとめても良いか。

(古矢議長)

構わない。

(海野委員)

質問票の日付欄は、公民館への訪問日と、公民館職員の記入日、どちらを記入するのか。質問票は公民館職員1人1枚ずつ回答してもらうが、同じ公民館で回答者ごとに日付が異なると不都合が生じるのではないか。

(古矢議長)

ヒアリング調査に関する質問票のため、日付欄には訪問日を記入いただくことを想定していた。日付欄に「訪問日」と記載したい。

(小泉喜亮委員)

調査当日の進め方について、調査開始前に公民館職員に伝える定型文のようなものがあると、各公民館の聞き取りレベル感に誤差がなくなり、回答する公民館職員の安心感にもつながると思う。

公民館6館共通で、聞き取りを開始前に必ず言うておくこと、例えば「今回のヒアリング調査はこのような目的で行い、これ以外には使用しない」という約束事を、予め伝えた上で実施した方が公民館職員も安心だと思う。それらの前置きがなく聞き取りに入ってしまうと、聞き出したい本音を引き出せなくなるのではないか。

(古矢議長)

資料 3-1「案内文」をもう一度焼き直し、小泉喜亮委員が言われたような約束事の定型文を作成するか。

(小泉喜亮委員)

定型文は、箇条書きで構わない。回答者全員に必ず伝える共通事項があると、安心感がある。

(金子委員)

「聞き取った内容は誰にも漏らさない」などの前置きがないと、本音を話してもらえないと思う。

(小泉喜亮委員)

そのような前置きがないと、回答者側も「今日話したことが他の公民館職員に伝わってしまうのではないか」と不安に思うのではないか。

(若林委員)

聞き取りながら記録を取ることが不得手なため、録音させていただきたい。録音するにあたっては、事前に「聞き取りの様子は録音させていただき、議事録などの記録を取るために使わせていただく」ということを、公民館の方に理解いただく必要がある。

(金子委員)

定型文に、「聞き取った内容を誰にも漏らさないこと」と併せて、「録音すること」も入れた方が良い。

(古矢議長)

聞き取り開始前に、公民館職員へ伝えておく事項をまとめた定型文は、生涯学習課で用意いただきたい。

(若林委員)

録音用 IC レコーダー等は、生涯学習課で用意いただくことは可能か。また、委員個人の IC レコーダーを使用することは可能か。

(事務局)

日常業務用に生涯学習課で IC レコーダーを所持しているが、市の情報管理上貸し出すことはできない。

録音には、委員個人の IC レコーダー等の録音機器をご使用いただきたい。

(金子委員)

私も信頼関係を築けている方々に対して携帯電話で録音を行っているが、今回のヒアリング調査は録音して問題ないか。

定型文に「調査研究の終了後、録音データは削除する」ということも記載した方が良いと思う。

(古矢議長)

生涯学習課で IC レコーダーを用意できないため、委員各自の録音機器を使用し、録音することによろしいか。

(金子委員)

公民館職員の方に許可を取った上で、録音する。

聞き取りしながら記録を取ると、何を書いているか自分でわからなくなってしまう心配もあるが、録音を断られた場合は、手書きできる方は手書きで対応する。

(大谷委員)

断られる可能性もある。

(古矢議長)

録音の許可を得るための文章などは、事務局で共通定型文にまとめ、後程委員の皆様にお知らせすることによろしいか。また、録音の許可が得られない場合は、手書きで対応することとしてよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(小林委員)

録音することについて、資料 3-1「案内文」にも書いておいた方が良いのではないか。

(秦野委員)

「録音は、調査研究の目的のため使用する」ということか。

(小林委員)

ヒアリングの最初に伝えるとともに、案内文の段階でも入れておいた方が良いと思うがいかがか。

(古矢議長)

利用目的の限定を入れておく、大事な指摘である。

(水谷委員)

調査目的が案内文に記載されていない。何のためにヒアリングが行われるのかや、3つの視点に沿った新しい視点で今後の公民館活動にフィードバックする予定であることなどを、表記した方が良いと思う。

調査目的を表記しないと、回答者にどのような形で調査結果が自分たちにフィードバックされるかわからない。

(古矢議長)

本質に触れる部分である。案内文に「全く新しい考え方のもとに」と記載した場合、回答者はどのように受け止め、どのように思うか。

調査研究報告書が本当に新しい視点となるか、まだ十分協議されていないため、現段階では触れずに、前段に書かれている「日々の活動に役立ててほしいという思いから調査研究報告書を取りまとめて行く予定」に収めた方が良いと考える。

(水谷委員)

気に掛かったため質問した。古矢議長の考えのとおりで構わない。

(大谷委員)

これまでの市公民館連絡協議会で、「何のために調査を行うか」「公民館を活性化するために、アンケートやヒアリング調査を通して社会教育委員の皆様が知恵を絞っている」ということは伝えているが、来週開催の市公民館連絡協議会で公民館長の皆様に再度伝えようと思っている。

公民館を活性化するため、公民館職員の皆様が頑張っていること、現在社会教育委員会議の中で色々な知恵を出していただいていることを、公民館に携わる者としてありがたいと思っている。

来週の市公民館連絡協議会では、社会教育委員会議で公民館活性化の話をしていることについて再度伝えて、更に少し具体的な話もしたいと考えているが、どこまで話して良いか。例えば、「6館にヒアリングをしたいと思っている。調査日程は、公民館からいただいた候補日の中で調整し、委員が公民館へ訪問してヒアリングさせていただく」ということを話したいと思っているが、そこまで話してよろしいか。

(事務局)

本日の協議で、調査日程等について委員皆様から同意いただけたら、公民館長等に伝えて問題ないとする。



(古矢議長)

ヒアリング調査について、大谷委員から公民館連絡協議会にぜひお伝えいただきたい。また、先程小林委員から発言があった「ヒアリング調査対象外の公民館 26 館は調査しないのか」という意見が公民館連絡協議会でも挙げたら、「それについて、現在社会教育委員会議で揉んでいる」と回答いただきたいと思うが、よろしいか。

(大谷委員)

個人的には、小林委員の意見に賛同する。ヒアリング調査対象外の公民館にも、共通質問について、どのような思いをもっているか知っておく必要があると思う。

(秦野委員)

ヒアリング調査について、市公民館連絡協議会で大谷委員から伝えていただけるとありがたい。「6 館以外の公民館に調査は行わないのか」という質問が挙げた場合には、「まだ社会教育委員会議で調整中である」と答えていただくということでもよろしいか。

(古矢議長)

そのとおりである。

次第の「ア 調査の実施方法等」「イ 調査の質問票」について、本日議論した内容で進めてよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(古矢議長)

次に、「ウ 調査グループの編成」について、資料 4 を踏まえて各公民館を担当するグループを決めていく。

資料 4 の調査候補日等を確認いただき、各自希望する公民館を決めてもらいたい。

(海野委員)

調査日程は、候補日の中から公民館が決めるのか。我々委員が決めるのか。

(古矢議長)

公民館を担当するペア同士で決めていただく。

(海野委員)

公民館長が出張等で不在となる日程もあるのではないか。

(古矢議長)

調査対象者が不在とならないよう、事前に事務局と公民館で調整済みである。資料 4 に挙げられている調査候補日は、公民館職員が対応可能な日程である。

(全委員)

グループ編成について協議。

(古矢議長)

グループごとに別れ、日程調整や連絡先交換等を行ってほしい。

(事務局)

急遽調査に行けなくなった場合には、同じ区内の担当者間で調整をお願いしたいため、同じ公民館を担当する方だけでなく、同じ区内を担当する方とも連絡先を交換いただきたい。また、日程調整や連絡先交換のほかに、役割分担や、資料 3-2 質問票以外で質問したいことなども、担当者間で話し合ってもらいたい。

○グループ編成及び日程調整の結果は、次のとおり。

なお、本日石川委員が欠席のため、決定ではなく仮置きとする。

石川委員には、後日事務局から連絡して調整する。

公民館	調査日	担当
相原公民館	調整中のため未定	安西委員、石川委員
相模湖公民館	1月12日(木)午前	雨宮委員、金子委員
横山公民館	12月23日(金)午後	海野委員、若林委員
星が丘公民館	12月16日(金)午前	大橋委員、小泉喜亮委員
大野南公民館	12月15日(木)午後	秦野委員、水谷委員
大野台公民館	12月20日(火)午後	小泉勇委員、小林委員

※調査時間は、午前の場合午前10時～正午、午後の場合午後2時～午後4時で実施。

(事務局)

事務局で公民館と日程や会場調整を行った上で、後日委員へ案内する。

委員の皆様には、調査に向けて、担当者同士で適宜連絡を取っていただき当日の役割分担や、調査終了後の記録のまとめ方、急遽行けなくなってしまった場合の対応など、調査を円滑に進められるよう事前準備をお願いしたい。

(3) アンケート調査等の結果について

事務局から資料の概要を説明した。

### 3 その他

(1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会(愛川町会場)について

標記研修会への委員派遣について協議し、古矢議長と小林委員を派遣することとなった。

(2) 報告事項「神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会について」  
海野委員が出席した研修会について資料を基に報告を行った。

(事務局)

次回定例会は、2～3月頃に開催予定。日程調整は後日行う。

古矢議長のあいさつにより、会議を終了した。

以 上

令和4年度 第3回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小泉 勇	相模原市立小学校長会		出席
2	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
3	小泉 喜亮	相模原市P T A連絡協議会		出席
4	大谷 政道	相模原市公民館連絡協議会	副議長、 小委員会 委員長	出席
5	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	大橋 千景	虹のおはなし会		出席
7	若林 由美	一般社団法人星と虹色なこどもたち		出席
8	石川 利江	学識経験者（桜美林大学教授）		欠席
9	秦野 玲子	学識経験者（RE Learning代表）	小委員会 委員長	出席
10	古矢 鉄矢	学識経験者（学校法人北里研究所参与）	議長	出席
11	小林 政美	学識経験者（特定非営利活動法人男女共同参画 さがみはら 副代表理事）		出席
12	海野 浩	公募		出席
13	水谷 英正	公募		出席
14	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク		出席